1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600941				
法人名	人名 特定非営利活動法人 養老会				
事業所名	養老の泉パートⅡ				
所在地	所在地 豊後大野市大野町大原1186番地1				
自己評価作成日	平成24年1月4日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472600941&SCD=320&PCD=44

【評価機関概要(評価機関記入)】

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	評価機関名 特定非営利活動法人 第三者評価機構 所在地 大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F			
所在地				
訪問調査日	平成24年1月19日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・本人の希望を聞きながら、外出支援に積極的に取り組んでいる。
- ・食事前の口腔体操や食後の口腔ケアの徹底をし、誤嚥予防に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

少人数の特性を活かした「地域密着型施設」が目指すべき、ほぼ理想的な模範施設の一つです。先行施設「養老の泉パートI」があるが安易に模倣することなく、職員の総意で独自の理念を判り易い表現にしたところに、本施設の特徴がある。明解に具象化した理念を、僅か10年で着実に作り上げたことは、賞嘆に値する。平均87.6歳の超高齢者で、軽度の認知症の利用者を、人生の大先輩として尊敬の念を持って向き合い、自家菜園で共に育成した無農薬野菜を中心にした献立にも、その心配りは散見されます。米飯も白米から玄米まで、個々人の希望にあわせて提供され、中には毎日晩酌する人もいる、きめの細やかさです。これほど伸びのびと、楽しげに働く職員(20代~60代)の表情にも、施設の理念が体現化された自信と充実度がみなぎっていました。ただ記録面を含めた諸の書式等に独自性や簡略化がみられず、次への高みを目指す上で早急な対応が望まれます。、

٧.	サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~	55で日頃の取り組みを自	自己点検し	たうえで、成果について自己評価します		
	項目	取 り st ↓該当するものに	組 み の 成 果 [〇印		項 目	↓該닄	取 り 組 み の 成 果 当するものに〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	O 2. 利用者 3. 利用者	ての利用者の の2/3くらいの の1/3くらいの ど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日あ 2. 数日に 3. たまにる 4. ほとん。	1回程度ある ある		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	2. 利用者	ての利用者が の2/3くらいが の1/3くらいが どいない		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	〇 2. 利用者	ての利用者が の2/3くらいが の1/3くらいが どいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	1. ほぼ全 〇 2. 利用者	ての利用者が の2/3くらいが の1/3くらいが		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	〇 2. 利用者	ての利用者が の2/3くらいが の1/3くらいが ごいない		職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟		ての利用者が				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外	項目	自己評価	外部評価	5
己	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ι.Ξ	里念し	に基づく運営			
1	(1)		礼で唱和するようになり、少しずつではあるが、実践につなげられていると思う。	理念は、皆が集うホールの目立つ場所に掲げており、毎朝の申し送り時に唱和しています。 全職員の総意で創作した理念だけに、具体的で実践し易い内容であり、施設の方向性が明解です。	本理念は、地域密着型施設という観点でなく、地域生活全般に共通すべきものであり、今後は自信を持って地域に 浸透させていく努力を期待します。
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流 している	今年度は自治会の班長をしている。地域のお祭りに参加したり、回覧版を届けたり、作業に参加したりと地域の一員として活動している。	家庭を頻繁に訪問した結果、より詳細に地域 内の状況等も把握できた。職員の顔も知れ渡り、通りすがりに挨拶され、地域内の行事もよ	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている	運営推進会議の中で認知症介護の実践報 告をさせていただいている。		
4	(3)		いたが、今のところ実践には至っていない。	2ヶ月毎に開催。参加者も内容に応じ行政、 自治・民生委員、あんしんサポート等、詳細多 岐に目配りされており、施設スローガンの一つ 「困った時は、お互い様の精神」に活かされて いる。	会議の活用が求められるだけに、参加
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員の方が来られた際 に、会話を持つようにしている。	高齢福祉課や生活福祉課など、行政との連携 は緊密であり、運営推進会議等を含め積極的 に参加してくれており、個々のケースにも気軽 に相談にのって頂いています。	利用者を災害時弱者リスト(一人暮ら しの高齢者、障害者)に登録する提言 を実現させ、東日本大震災を参考に、 災害時での地域拠点となる準備に入っ て欲しい。
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに 取り組んでいる	職員が話し合いを持ち、理解を深め、ケアに 取り組んでいる。コールマットを使用している 方には、御家族にも十分説明して同意を得て いる。	母体施設が「身体拘束等の排除」を掲げ、それが「利用者の尊厳を守る」としており、それがあらゆる点で徹底しており、玄関や部屋にも鍵は無く、本項目の実践も、家族に細やかに説明されています。	利用者平均年齢87.6歳だが、比較的 元気な利用者が大半であり、今後も法 人名称「養老」に相応しい対応を名実 共に継続充実して欲しい。
7			研修の中で、学んでいる。虐待はあってはならないことと意識し、日常的に気をつけるようにしている。文献を読んだりしている。		

白	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性 を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援 している	今年度は学ぶ機会がなかった。 また、活用の事例もなかった。		
9		〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時、具体的に話して説明している。 料金の事、損害賠償について、苦情処理の 体制について等の件は特に丁寧に話してい る。		
10		〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている	御家族の意見(苦情)があった際、全職員で 話し合い、今後の対応に反映させている。	利用者家族アンケートは、ほぼ満点に近い評価で、9家族中7家族が回答し、4家族が記録閲覧や居室への入室に同意しています。十分過ぎる程の信頼と満足度で、要望意見も反映されています。	
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期で面接を行い、職員の意見を聞く機会をとっている。また、管理者等は、日頃から職員とのコミュニケーションを持ち意見を言いやすい雰囲気を作るように努力している。		施設の良否は、働く職員が自分の家族を利用させたいと思えるかでありますが、伸びのびと明るく働ける職場こそ理想です。施設にみなぎるその雰囲気をぜひ継続して欲しい。
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条 件の整備に努めている	下半期から、職員の行動評価制を取り入れ、職員各自が自己評価をする取り組みをしている。向上心を持って働ける事を期待している。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	職員個人別に、行動評価の目標を掲げており、達成状況を把握していくようにしている。 事業所内での勉強会を中心に、機会があれば外部の研修にも参加している。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の 活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り 組みをしている	宅老所、グループホームネットワークに加入 しているが、今年度の参加はなかった。		

自	外	-= D	自己評価	外部評价	ш
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	子心と	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、利用開始前までに本人に会い、話を持ち、顔見知りになるようにしている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づく りに努めている	利用開始前には、御家族とじっくりと話をする ようにしている。これまでの経緯や御家族の 思いを伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一旦は入所し生活されていたが、御家族の 自宅生活への強い希望があり、居宅支援事 業所のケアマネとの話し合いの中で退所に 結びつけた事例がある。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事など、一緒のテーブルにつき摂っている。日々のコミュニケーションの中で、不安や 悩みを伺い共感するようにしている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族との触れ合いの機会を積極的に持つように行事への呼びかけをしている。(誕生会、敬老会、新年会等)		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の美容室に行ったりしている。 入所前に住んでいた地域の方が時々挨拶に 来てくれている。	利用者一人ひとりが、その人らしく生活して貰えるよう、かかりつけの美容室や買物交流等を通して、積極的に取り組んでいる姿勢は、外出支援に力点を置くところにも現れています。	「行きたい所へは、いつでもお供をして 出かけます」の理念を、これからも継 続支援することを期待します。
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	座る位置の配慮をし、良好な関係が取れるようにしている。利用者同士でトラブルになりそうなときは、職員はその関係を把握しており、早期に介入し、トラブルを避けるようにしている。		
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に入所された方を訪問することがある。また、その方が、尋ねてくれたこともある。		

自	外		自己評価	外部評価	ш
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ш.	その				
23		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人とのコミュニケーションをとり、話を伺うことで、思いを知ったり、困難な場合、本人本位で考え声かけしたりしている。	調査日にしていた「塗り絵」も額装して居室に 飾ったり、賀状等に活用する由。日々の行事 などを貴重な思い出づくりしていく取り組み に、施設のきめ細やかな思いや意向が溢れて いました。	地域密着型サービスの特性「少人数」 「馴染み」の関係を、十分過ぎるほど活 かしており、個々人の思いや暮らし方 などへの配慮も申し分ないようです。
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者フェイスシートから情報をとり、馴染の暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等を知り、職員間で話し合いをしている。また、可能な方には、どんな生活をしていたのか、聞いたりしている。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	利用者との会話の中から、本人のしたい事、 できる事を聞き出し、役割が持てるように対 応している		
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	変化があった時は、できるだけ全員が集まりサービス担当者会議を開きケアの方針を決めている。担当者がモニタリングを行っているが、他の職員との共有や、次計画へのつながりには努力が必要と感じている。	利用者の変化に応じ担当者会議を開催し、新たなケア方法などを決定している。欠員職員にも後日徹底しており、アセスメントを含め全員で意見交換し、モニタリングやカンファレンスも行っています。	利用者個々の暮らし方が反映した介護計画であり、利用者主体の視点ではありますが、書類をより詳細に記録することで、より良い介護計画を期待します。チームで作る介護計画とモニタリング
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録表への記入を行い、業務日誌の確認を行うなど、情報は共有している。		
28		対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な	定期往診以外に体調不良がある場合は、診療所までの介助をしている。また、御家族と旅行に行かれた方もいる。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш
Ē	部	·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			近所に住むボランティアの方が時々来てくれ、折り紙や本の読み聞かせ等を行ってくれている。また、保育園児の訪問もある。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族が納得したかかりつけ医となっている。また、かかりつけ医と連携をとりながら、体調に変化があった時は速やかに話し合いを設け、関係者の思いにずれがないように努めている。	ほとんどの利用者が協力医療機関への受診を希望し利用されています。 専門医になると、適切な医療機関へ受診できる体制をとっている。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて 相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受け られるように支援している			
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを 行っている。	入院時には、介護サマリーを送るようにしている。入院後も早期退院に向けての話し合いを、病院の相談員と御家族と進めていっている。話しあいの内容等、記録により職員が解るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で できることを十分に説明しながら方針を共有し、地 域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には、主治医を交えての話し合いを持つようにしている。入院することと、ここで過ごすことのメリットデメリットをを説明し、御家族に十分に考えてもらうようにしている。また、記録により、職員も理解できるようにしている。	終末期を迎えられる利用者にも対応できる体制を整えている。ご家族にも安心してサービスの利用ができるよう話し合いを何度も繰り返し行い、関係者とも連携をとり支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、 実践力を身に付けている	訓練はしているが、定期的には行えていない。何かあったら、バイタルチェックし、看護師に連絡しており、実践力はついていない。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけるとと もに、地域との協力体制を築いている	災害時等の職員連絡体制が整備されてきている。連絡網だけでなく、一斉メールの利用もしている。消防署や地元消防団の方の協力を得て、避難訓練を実施した。	今年度は3回の避難訓練を行っている。その内の1回は、職員の呼び出し訓練を行い熱心に取り組んでいる。	緊急時の地域の方々の協力体制つく りについて検討するよう希望します。

自	外		自己評価	外部評価	ш
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、本人の意志やプラーバシーを損なわない言葉がけや態度に 気をつけて対応している。	全体会議での勉強会で研修を行っている。 日頃のトイレへの声かけ、入浴時の言葉かけ に十分配慮しています。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者の寄り添い、言葉かけを行い話を伺っ ている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がしたい事、しようとしている事に気 づくように努力している。しかし、決まりや都 合で動くことがある。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	希望に沿った髪形、マニュキュアでのおしゃれ、髭そりでの身だしなみ等支援している。 入浴の際の更衣する服を、本人と一緒に選んでいる。		
40	(15)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事の準備(主に野菜切り)をしたり、下膳を してくれたりしている。ご飯も、白米と玄米を 用意し、好みの物を選べるようにしている。	地域で採れた新鮮な野菜や、無農薬野菜を 使い、生食にこだわり」、料理されている。お 米も玄米と白米から選べるようにしている。希 望があれば晩酌も可能。職員も一緒になり楽 しく食事を摂っている。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応 じた支援をしている	その時の体調に合わせ、食形態を変えて対応している。また、水分摂取が不足がちな方には声かけするなどして、支援している。水分や食事の摂取状況を、毎回記録している。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	ロ腔内の状態や本人の力に応じて毎食後支 援している。		

自	外	75 0	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで	出来るだけ昼間は布パンツで過ごしていただき、トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	水分を多くとっていただくように声かけしている。 体操をしたり散歩に出かけたりを運動も取り 入れている。それでも便秘の時は、下剤等の 利用をしている。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決め てしまわずに、個々にそった支援をしている	いで順番や曜日を決めている。入る気分でない方には、後から誘ったりするなど、無理強	入浴は週3回となっており個々の希望の時間に合わせた入浴となっている。入浴の嫌いな利用者には、いろんな声かけを行い、入ってもらうように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	昼寝の習慣がある方にはゆっくりしていただいている。また、夜間不眠で傾眠のある方も、昼夜逆転に配慮しながら、無理に起こしてはいない。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬説明書を個人の記録に綴り職員が把握できるようにしている。誤薬の無いように、名前や日付、食事前後の確認をし、手渡ししている。しっかり服薬出来たか確認している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみは皆さんがよろこんでしている。人によっては洗濯物を干したり、床掃除をしてくれたり、味噌汁の具をきってくれたり、就寝準備の手伝いをしてくれる人もいる。		
49			り、貝い初かしたい時は近くの人一ハーに	初詣、さくらの花見、紅葉狩り、アジサイ祭り、 ピクニックと、積極的に季節ごとの外出支援を、 行っている。	

自	外		自己評価	外部評価	西
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している	1人ひとりの希望により、御自分で所持する 方、買い物が店でできるように支援してい る。出納帳の記入を一緒に行い、管理してい る。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	家族からかかれば、居室でゆっくり話してもらっている。また、かけたい希望があったり、贈り物が届いた際には、かけていただいている。手紙も書き、ポストに投函しに行っている。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまね くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないよ うに配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度、臭い等に配慮している。 季節の花、季節感のある掲示物にするなど している。	食堂、ホールは吹き抜け建築で、明るく開放的である。ホールには季節感を、感じる事ができる掲示物が、飾ってある。個別に、作ったものは、ファイルにとじて、家族が来られた時にもみる事ができるようになっている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫 をしている	ソファーで気のあった人同士で過ごしたり、居室やウッドデッキに自由に出入りして自分の時間を持てている。トラブルへの配慮もしながら、食事の際の座る位置を考えている。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る		自宅で使用していたパイプハンガーや、マッサージ機など、使い慣れた物で、過ごせるようになっている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように工夫している	自走車イスの方がいるので、通路の確保をしている。トイレには手すりやファンレストテーブルを設置しており、排泄動作を出来るだけ自立して行えるようになっている。		